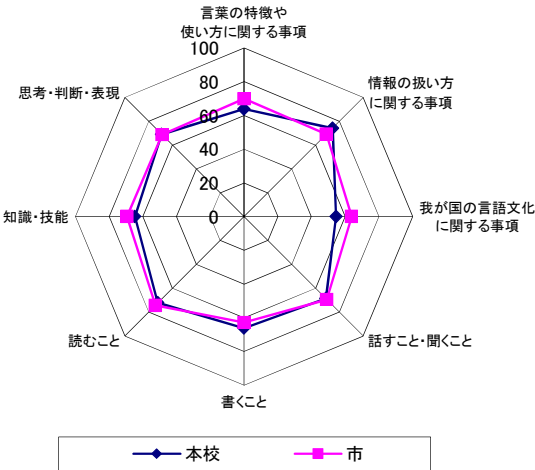


宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方にに関する事項	63.9	69.9	72.3
	情報の扱い方にに関する事項	74.2	69.2	73.0
	我が国の言語文化にに関する事項	54.5	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	68.7	69.5	71.5
	書くこと	66.2	62.8	67.1
	読むこと	72.2	74.4	73.7
観点別	知識・技能	64.7	69.4	71.9
	思考・判断・表現	69.1	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

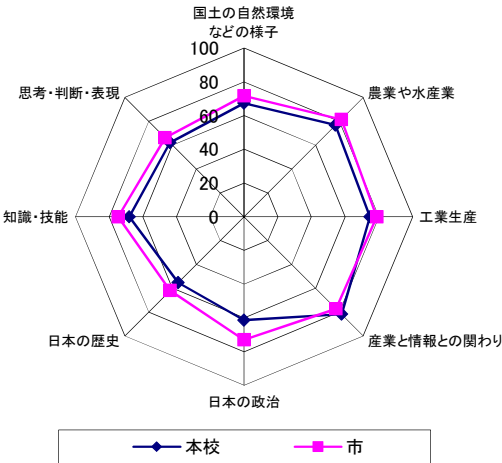
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方にに関する事項	●市の平均正答率よりも6ポイント低い。5・6年生で学習した漢字の読み取りや書き取りで市の平均を下回るものが多い。 ●熟語の成り立ちや敬語の使い方で見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の学習については、授業や日常生活の中で意味にふれたり、同音異字の言葉の意味調べをしたりすることで、熟語への知識・理解が深まるようにする。 ・敬語の学習は日常生活の場面で使用しながら正しい使い方についての理解を深められるようにする。特に外部へのお礼の手紙等、相手を高めたり自分を下げたりする使い方が必要な場面で指導していく。
情報の扱い方 に関する事項	○市の平均正答率より5ポイント高い。情報と情報の関係を理解し、目的に応じて簡単にまとめることができた。	・情報を読み取った際には、自分の考えを文章にし、読むことや書くことを関連付けて指導を続ける。
我が国の言語文化 に関する事項	●市の平均正答率よりも9.3ポイント低い。和語、漢語、外来語を分類する問題では、それぞれについて理解が浅く、誤りが多く見られた。	・熟語の成り立ちやその由来を整理し、繰り返し学習することで理解を深めていく。
話すこと・聞くこと	●市の平均正答率よりやや低い。インタビューの内容を聞き取る問題では、話を正確に聞き取ることが難しく、自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えているかを問われる問題の正答率が低い。 ○意図に応じて質問を工夫する問題では、市の平均正答率よりも9.6ポイント高い。	・話し合い活動を行う際には、どのような手順で話したらよいか、また、相手に自分の考えが明確に伝わるようにするにはどのようなしたらよいか確認するとともに、それぞれの発言を整理し、話し合いの内容が理解できるようにしていく。
書くこと	○市の平均正答率より3.4ポイント高い。ポスターを作る問題では、目的や意図に応じて書き表し方の工夫を考えることができており、正答率が高い。 ○文章を書く問題では、自分の意見とその理由を明確にして書くことができ、正答率は市の平均より6.7ポイント高い。 ●指定された長さで、段落の構成を考えて文章を書く問題は、市の平均より正答率が低い。	・文字数や段落数などの制限を設けるなど、条件を与えて作文をする活動を意図的に取り入れ、書くことに慣れるようにする。
読むこと	●市の平均正答率より2.2ポイント低い。物語の内容を読み取り、自分の考えを広げることが苦手な傾向にある。 ○物語を読み、登場人物の心情について、描写を基に捉える問題は市の平均と比べ6.3ポイント高い。 ●説明文では、文章全体の構成を捉えたり、叙述を基に文章の内容を捉えたりすることに課題が見られる。	・物語文では、登場人物の心情について、物語中の変化、背景描写、比喩など物語の中にある様々な叙述に気を付けながら丁寧に読み取りを行っていく。 ・説明文では、段落の構成を考えたり、段落ごとの要旨をまとめたりすることで筆者の主張が正しく読み取れるよう指導していく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	67.3	71.6	67.5
	農業や水産業	76.8	81.5	82.1
	工業生産	74.7	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	81.8	77.2	68.2
	日本の政治	61.4	73.1	77.9
	日本の歴史	55.3	62.0	65.8
観点別	知識・技能	68.1	74.6	74.5
	思考・判断・表現	62.1	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

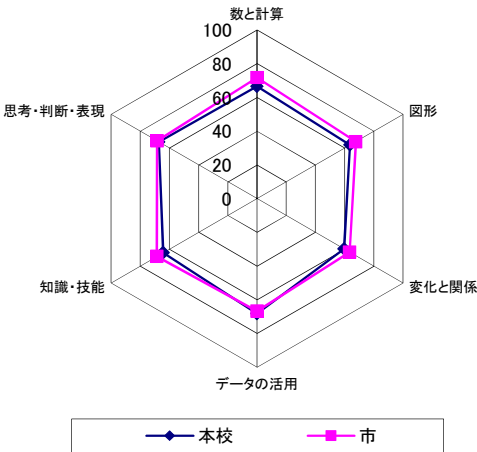
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境 などの様子	●平均正答率は65.7%で、市の平均を約5ポイント下回っている。 ●日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取る問題における平均正答率は24.9%と、市の平均を約13ポイント下回っている。 ○韓国の国旗と位置についての理解は平均正答率が78.8%と市のへいきんを4ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・関連がある学習をした際には、地名や県名などの場所を地図で確認したり、授業の始まりの時間などを使い、地図帳などをに用いて意図的に復習したりしながら、習熟を図っていく。
農業や水産業	●平均正答率は76.8%で、市の平均を約5ポイント下回っている。カントリーエレベーターの理解についての問題の平均正答率が66.7%と、市の平均を16ポイント下回っている。 ○地産地消の取り組みについての問題は、平均正答率が87.9%と、市の平均正答率を約6ポイント上回っている。	・重要語句についての調べ学習などに取り組み、語句の正しい意味について理解できるようにさせていく。また、理解した言葉を使って短い文章でまとめさせるなど、言語活動の充実を図っていく。
工業生産	●平均正答率は74.7%と、市の平均正答率を4ポイント下回った。自動車の出荷の工夫についての問題が、平均正答率48.5%と、市の平均正答率を14ポイント下回っている。 ○自動車の工場の作業工程についての問題については、97.0%と、市の平均を約4ポイント上回っていた。	・工業の領域では、自動車をはじめ機械を扱った問題が見られることから、難しい言葉や漢字ばかりが並ぶので、意図的に復習をするなどして、基礎的な知識を確実に覚えられるようにしていく。工業製品の海外への出荷については、実感を持つことが難しいことから、新聞やニュースなどを用いて、より身近なものとして捉えさせていきたい。
産業と情報との関わり	○平均正答率は81.8%と、市の平均正答率を約4ポイント上回った。自分たちの生活と情報との関わりについて、おおむね理解できている。	・各情報メディアの特色について復習したり、メディアの情報を利用する際の注意点を定期的に確認し合ったりする。新聞やテレビ、インターネットでの情報を取り上げ、情報産業や情報化社会の中で生活している自分の問題として捉えられるようにしていく。
日本の政治	●平均正答率が61.4%と、市の平均正答率を約12ポイント下回った。 ●税金についての理解についての問題が54.5%と、市の平均正答率を26ポイント下回った。	・政治の領域については苦手意識が強く、とくに税金については、自分の問題として捉えることが難しいため、理解が不十分な児童が多く見られた。朝の学習の時間やAIDリルを活用した家庭学習などを活用し、定期的に復習できるようにしたい。
日本の歴史	●平均正答率が55.3%と、市の平均正答率を約7ポイント下回った。奈良時代において遣唐使が日本の文化に与えた影響を表現する問題では、平均正答率が27.3%で、理解が不十分な児童が多かった。	・写真や映像、実物を見せながら、その時代の文化や背景を考えられるような指導を継続して行い、単元の終わりには他の時代ではどうであったかを考えさせながらまとめさせ、理解を深めていきたい。 ・自分の言葉で文章にして、表現することに苦手意識を持っている児童が多い。そのため、授業の中で、自分の言葉で表現する機会を意図的に設け、言語活動を充実させていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	66.7	71.8	76.2
	図形	63.6	67.7	67.8
	変化と関係	59.6	63.4	62.7
	データの活用	68.2	66.7	61.5
観点別	知識・技能	64.2	68.6	70.7
	思考・判断・表現	67.3	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

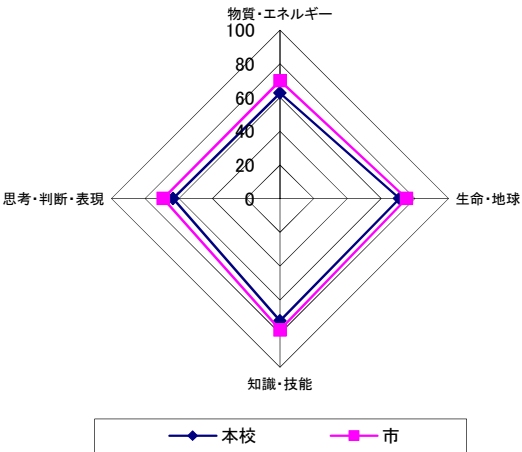
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は、66.7%と市の平均正答率を約5ポイント下回った。 ●小数のかけ算の計算では、市の平均正答率を下回っているが、小数のわり算の計算では、市の平均正答率を上回っている。 ●分数の除法の問題文にあった図や式を選ぶ問題の理解が不十分であり、分数において、題意に沿った立式をする問題に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・小数の計算においては、小数点の処理や、付け忘れが考えられる。様々な問題に取り組ませ、計算力を高められるようにしていく。 ・図や数直線を用いて考えたり、説明したりする力を向上させるために、授業の中で、数量関係を図や数直線で表す活動や、そこから数量関係を読み取って式に表す活動を積極的に取り入れていくようにする。
図形	●平均正答率は、63.6%と市の平均正答率を約4ポイント下回った。 ○点対称な図形の対応する辺を見つける問題や、三角形の面積を求める問題については、市の平均と同程度か、市の平均を上回った。 ●立体、体積の分野で、市の平均を下回っている。	・立体や体積などは、実際の図形を用いながら底面積の位置や体積を求める活動を取り入れていく。また、基本的な体積の求め方が身に付くように繰り返し練習する時間を設ける。 ・図形に関する知識が確実に身に付くように復習の機会を設ける。
変化と関係	●平均正答率は、59.6%と市の平均正答率を約4ポイント下回った。 ○図から面積と数の割合を求める問題の平均正答率は、81.8%と市の平均正答率を上回った。 ●基準量と比較量から、割合を求める問題の平均正答率が低く、課題が見られた。	・割合の問題では、基準量と比較量を正しく理解できていないことから苦手意識を持っている児童が多い。問題文を読んで、正しく立式することができていないため、基本的な問題から取り組み、力を付けていくようにする。
データの活用	○平均正答率は、68.2%と市の平均正答率を上回った。 ○ドットプロットの中央値を求める問題では、市の平均正答率を上回った。 ●帯グラフを読み取って説明をする問題については、平均正答率が、33.3%と低い。	・帯グラフや図から読み取ったことを、自分の言葉で説明することに苦手意識を持っている児童が多い。単純な読み取りはできるが、読み取ったことを、題意に沿って、自分の言葉で表現することが難しい。今後は、自分の考えが、相手に分かるように説明する機会を、積極的に授業の中で取り入れていく。

宇都宮市立城山中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.6	69.9	67.8
	生命・地球	70.9	75.1	73.7
観点別	知識・技能	72.5	77.8	78.4
	思考・判断・表現	63.5	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	●市の平均正答率より7.3ポイント低い。特にふりこのきまりの、対照実験の計画から結果を読み取り、ふりこの往復時間を推測する問題の正答率が低い。 ●物のとけ方では、同じ量の食塩とミョウバンを、水に加えたときの溶け方を答える問題や、溶け残った食塩をすべて溶かす方法を答える問題における正答率が、市の平均正答率より10ポイント以上低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験や観察をする際には、あらかじめ予想を立て、何を求めるための実験を行うのかや、そのために変える条件・変えない条件などの条件制御についてよく理解させてから行うようにする。また、苦手傾向のある単元や内容については、プリントやA4ドリルで復習の時間を確保し、定着を図っていく。
生命・地球	●市の平均正答率より4.2ポイント低い。生物とかんきょうの、動物の食べ物のもとをたどると植物に行き着くことなど、食物連鎖について答える問題の正答率は、市の平均正答率より13.8ポイント低い。 ○植物のつくりとはたらきでは、茎を縦に切ったときの断面の、水の通り道の様子を答える問題における正答率は90.9%で、市の平均より9.1ポイント高い。	・食物連鎖や、植物のつくりとはたらき・植物の発芽と成長などの学習では、じっくり観察し、さらにインターネットの情報や映像資料を活用し学習すると共に、図を使って学習した内容をまとめるなどして、理解を深めていく。

宇都宮市立城山中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の改善と工夫。	・学習のねらいや見通しをつかむことができる明確な課題の提示を行う。 ・授業研究会「一人一授業」を行い、教材研究や話し合い活動の工夫の実践を行い、学習の深化を図る。 ・クロームブックを積極的に活用し、児童の興味・関心を高めるとともに、児童同士の学びを共有し、意見を交換し合う中で、課題を追究しようとする意欲を育てていく。	・「授業がどの程度分かりますか。」では、肯定割合がどの学年も9割を超えていたが、「勉強がすきですか。」は学年が上がると低くなった。 ・「先生や友達の話最後まできちんと聞いている。」「分かったり、できるようになったりすることはうれしい」の肯定割合は約9割で、落ち着いて学習に取り組んでいることがうかがえる。
・自分の意見を安心して表現し合える学級経営に努めるとともに、伝え合う活動を意図的に設ける。	・朝の学習の時間を「モジュール学習」とし、基礎・基本の定着を図るために活用する。 ・基礎・基本を定着させるための指導の工夫をするとともに、「家庭学習強化週間」の実施や個別指導などを通して家庭学習の充実を図る。 ・授業中にノートに自分の意見をまとめる時間を確保するなど書く機会を増やす工夫し、自信を持って伝え合えるようにする。	・学力調査では、国語、算数、理科、社会において、基礎・基本の定着が十分ではなかった。 ・「宿題をきちんとやり、期限までに提出している。」の肯定割合は約9割で良好であるが、「平日の家庭学習時間」が「学年の目標時間」に達しない児童の割合が、1年0%、2年7.5%、3年11.5%、4年28.5%、5年46.7%、6年19.5%であった。休日では、「ほとんどしない」の割合がどの学年も増えるなど、さらに学習時間が短かった。 ・「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートにまとめている。」では、低学年では高い肯定割合であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・4～6年生では、すべての教科において基礎・基本的な力が十分ではなかった。今後も児童の『一人一人が分かる授業』を目指し授業研究に取り組むとともに、すべての教科で基礎・基本の定着を図る工夫を行い、分かったことから考えをまとめて書く力、文章にする力の育成に努める。

・家庭学習への取組については、次年度も継続して指導を行い、学習の習慣化を促進し、基礎・基本の力の確実な定着へつなげる。

・クロームブックを積極的に活用し、児童の興味・関心を高め、児童同士の学びを共有したり、話し合いを深めたりする手立てとし成果が見られた。AIドリルなどを用いて繰り返し学習を行い基礎基本を育成することも含めて、今後も一層ICTの活用を努める。